

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.54
2020
[March]

月号
3



自動車博物館関連施設紹介シリーズ

三菱自動車工業 / 三菱オートギャラリー

第一回 飲酒運転問題の実態と国内・各国の防止の取り組み

特別連載 「オリンピック・パラリンピック等経済界協議会」 活動紹介 ①

栗山 浩樹 運営委員会座長
(日本電話番号：(NTT) 常務取締役)

「オールジャパンで東京オリンピック・パラリンピック大会の成功
その先、未来の子どもたちに残すソフト・ハードレガシーをつくる」

JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会



2020年3月主要自動車関連イベント



 は四輪車レース

 は二輪車レース

国内主要イベント

日時	場所	名称
3月 14-15日	北海道 アクセスサップロ	2020北海道モーターサイクルショー
20-22日	大阪府 インテックス大阪	第36回 大阪モーターサイクルショー2020
27-29日	東京都 東京ビッグサイト	第47回 東京モーターサイクルショー

国内モータースポーツ

日時	場所	名称
3月 13-15日	愛知県 新城市	 全日本ラリー選手権 第2戦 新城ラリー2020
22日	三重県 鈴鹿サーキット	 スーパー耐久 第1戦

海外主要イベント

日時	場所	名称
3月 5-7日	スイス ジュネーブ	ジュネーブ国際モーターショー
6-8日	ベルギー アントワープ	アントワープ クラシックサロン
25-29日	ドイツ エッセン	テクノクラシカ エッセン
3月25日-4月5日	タイ バンコク	バンコク国際モーターショー2020

海外モータースポーツ

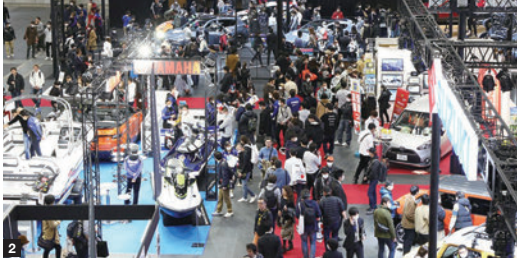
日時	場所	名称
3月 1日	オーストラリア フィリップアイランド・グランプリ・サーキット	 ワールドスーパーバイク選手権 第1戦
8日	カタール ロサイル・インターナショナル・サーキット	 Moto GP 第1戦 カタールGP
13-15日	メキシコ レオン	 WRC 第3戦 ラリーメキシコ
15日	カタール ロサイル・インターナショナル・サーキット	 ワールドスーパーバイク選手権 第2戦
20日	アメリカ セブリング・インターナショナル・レースウェイ	 WEC 第6戦 セブリング1000マイル
22日	タイ チャーン・インターナショナル・サーキット	 Moto GP 第2戦 タイGP
29日	スペイン ヘレス・サーキット	 ワールドスーパーバイク 第3戦

※2月27日時点

JAMAGAZINE 2020年 3月号

発行日 2020年2月28日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



1 左：運営委員会座長(日本電信電話(NTT)常務取締役) 栗山 浩樹氏
2 第24回 大阪オートメッセ2020
3 JAMA 電子情報フォーラム 2020
4 経済産業省主催「サポカー実感試乗会」
5 三菱自動車工業 / 三菱オートギャラリー

02

特別連載

「オリンピック・パラリンピック等経済界協議会」活動紹介①

運営委員会座長 (日本電信電話(NTT)常務取締役)
栗山 浩樹氏

「オールジャパンで東京オリンピック・パラリンピック大会の成功
その先、未来の子どもたちに残す
ソフト・ハードレガシーをつくる」

- 「第46回東京モーターショー2019」での連携「FUTURE EXPO」に参加
- 自工会 ソフトレガシー活動

10

飲酒運転の実態と防止について

第一回 飲酒運転問題の実態と 国内・各国の防止の取り組み

14

経済産業省主催「サポカー実感試乗会」

16

令和2年度 道路ふれあい月間 推進標語募集のお知らせ

17

トピックス

札幌モーターショー2020、第24回 大阪オートメッセ2020

18

JAMA 電子情報フォーラム 2020

19

トピックス

令和元年度 安全優良職長厚生労働大臣顕彰

20

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

三菱自動車工業 / 三菱オートギャラリー

21

記者の窓

『「陽水」を辿って』

産経新聞 今村 義文

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)



オールジャパンで 東京オリンピック・パラリンピック大会の成功 その先 → 未来の子どもたちに残す ソフト・ハードレガシー をつくる



「オリンピック、パラリンピックを通じて、オールジャパンで未来のための財産を残そうというのが始まりでした。スポーツや文化体験を通して得られる経験を子ども達にバトンとして受け渡し、それが後世まで脈々と受け継がれていくようなレガシーになればと考えています。昨年末の時点

未来のための財産を残す
協議会設立に至った経緯を教えてください

未来のための財産を残す

運営委員会座長

(日本電信電話(NTT)常務取締役)

くりやま ひろき

栗山 浩樹 氏に

聞く

東京オリンピック・パラリンピック(以下、大会)が7月24日にいよいよ開幕します。オリンピック・パラリンピック等経済界協議会(豊田章男会長)は、大会の機運醸成と未来を生きる子どもたちに「レガシー」を残すことを目的に、日本の経済界が一丸となって立ち上げました。復興五輪など自治体と連携した「ソフトレガシー」と、自動運転や5G(第5世代移動通信システム)といった最先端の技術を訴求する「ハードレガシー」の両面から活動を進めています、全国で競技や伝統文化を体験できる機会も提供しており、企業人や子どもたちを中心に参加者の輪は広がりつつあります。大会前に灯ったこのレガシーの灯を、2020後を生きる人々に受け渡していくことができるかが、今後の要になってきます。



ブラインドマラソン2016年リオ大会銀メダリストの道下美里選手と道下選手をサポートする伴走の皆さんを激励するため、豊田会長、栗山座長が福岡県の練習ルートを訪問しました。



QRコードより
協議会HPを
ご覧いただけます。





バリアフリー



スポーツ



日本の魅力

未来に向けたレガシー



ハードレガシー



復興・次世代継承

「で全国で1000件を超えるプログラムを実施しました」

「日本の経済界が一丸となって取り組む壮大なプロジェクトになりました」

「日本経済団体連合会（経団連）や日本商工会

議所、経済同友会といった経済界全体で協力体制を取っています。立ち上げた当初は「本当にそんなことができるのか」という半信半疑の声も少なくありませんでした。ビジネスを抜きにして、経済界が一つになる

「これまでない組織体系ですからね。そういった面でも新しい試みだと思えます。参画企業の社員を合わせると

200万人に上り、マンパワーだけでも相当な規模感になります」

「ソフトレガシーとハードレガシー

「レガシーとは具体的にどのようなモノでしょうか」

「大きくわけると二つあると思います。一つ目はソフトレガシーです。ソフトレガシーは、全国各

地のムーブメント・機運醸成として、「スポーツ」

「バリアフリー」「日本の魅力」「復興次世代育成」の四つのテーマについて

取り組んでいます。自治体と連携することで、全国で子ども向けに競技会を開催したり、日本の伝統文化を体験できる機会を設け、スポーツの楽しさや日本人としての誇りを子ども達に感じてもらう

「二つ目はハードレガシーです。参画企業が持つ最新のテクノロジーを子ども達に体験してもらえる機会を積極的に用意しています。ここでの体験がきっかけで、将来の日本を支える技術者が生まれたら嬉しいですね。大会で採用される技術も多く、日本のモノづくりを世界に発信していく場になればと期待しています」

「二つ目はハードレガシーです。参画企業が持つ最新のテクノロジーを子ども達に体験してもらえる機会を積極的に用意しています。ここでの体験がきっかけで、将来の日本を支える技術者が生まれたら嬉しいですね。大会で採用される技術も多く、日本のモノづくりを世界に発信していく場になればと期待しています」

「体験会や観戦を通して」

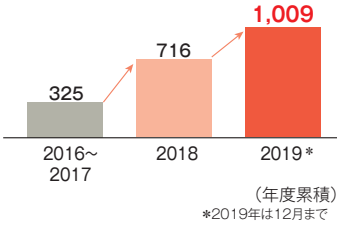
「スポーツを通して子どもたち



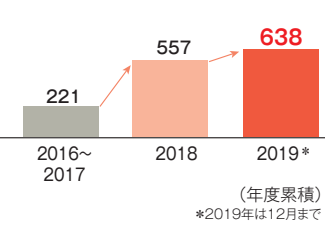
「様々な競技の体験会や観戦イベントを全国で開いています。中でもボッチャという競技は、健常者、障がい者の枠を超えて学べることは多そうです。具体的にどのようなことを催していますか」

「様々な競技の体験会や観戦イベントを全国で開いています。中でもボッチャという競技は、健常者、障がい者の枠を超えて学べることは多そうです。具体的にどのようなことを催していますか」

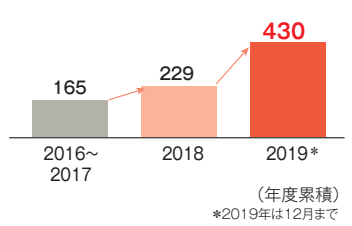
◆活動回数 ※WG活動のみカウント



◆参加企業数

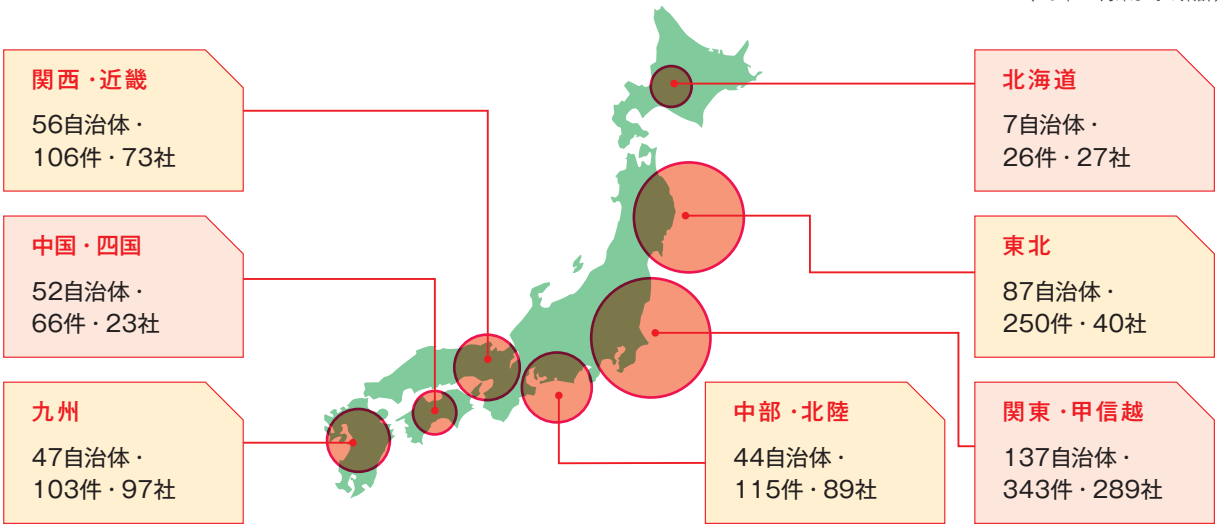


◆連携自治体数



全国エリア別の活動実績 ※地域別の「連携自治体・活動回数・参加企業」

(19年12月末までの累計)



―体験会は子ども達がパラリン

■パラスポーツに触れる

えて同じように楽しむことができるため、様々な人達にご参加いただいています。ポッチャはジャックボール(ターゲット球)に自分たちのボールをどれだけ近づけられるかを競う競技です。本当に奥が深いスポーツで、自分たちのボールを使って他チームのボールをどれだけ遠ざけることができるかが勝敗を分けるのですが、トップアスリートの方ですと、ボールの上にボールを乗せる難易度の高い技を成功させる方もいらっしゃるの、観ている方もとても盛り上がりま

す。体験会では、子ども達がとても楽しそうに競技をしていたのが印象的でした。協議会内の企業でもポッチャのチームを作って体験会に参加する人もいて、競技人口全体も増えてきていると思います。パラスポーツは障がいを持つ人だけの競技だと思われることが多いですが、障がいの有無を問わず同じ土俵で楽しめるスポーツだと知ってもらえる機会になれば嬉しいですね」

―一緒に、実際に車いすに乗って

■「見えない障害」を取り払う

「我々健常者の視点では分からない障害が街には溢れています。大会には世界中から多くの方がいらつしゃるので、その「見えない障害」を取り払うことが必要だと思います。子ども達と一緒に、実際に車いすに乗って

ビック自体に興味を持つきっかけにもなりそうですね

「前回の東京大会は高度経済成長期の開催だったため、日本のハードインフラの成熟度を世界にアピールする狙いが強くありました。しかし今回は、社会全体がユニバーサルになってきており、多様性の観点からもパラリンピックへの注目度が前回よりも高くなっています。ですので、子どもたちがパラスポーツに触れる機会が増えることは良いことだと思います」

―協議会では会場付近のバリアフリーマップの作成もされているとお伺いしました。この活動も多様性に通じるところがありますね



未来の子供たちに残す
レガシー
をつくる



会場付近の道路を走行し、不便な点、直した方が良い点をマップに描き起こしています。例えば、海外で普及している車いすは日本よりもサイズが大きいため、トイレに入ろうとすると狭くて通れなかったり、室内で方向転換ができないことが作業の過程で分かりました。実際に体験しなければ気が付かなかったことです。参加した子ども達だけでなく、我々の視野も広がりました」

■被災地の復興も

「今回の大会は被災地復興の一面もあります。協議会でも、東北地域にフォーカスをあてた活動をされていますね」

「東北地方でもさまざまなプログラムを展開しています。ホストタウンの相手と子ども達同士の交流ができる機会を設けたり、学校などで災害時の安全確保の講習を実施した

り、子ども達の未来を守る活動がメインですね。会場企業の経営者向けに勉強会や販路拡大支援会も開催し、経済の面からも東北を支援しています。また、東北は震災の風評被害で野菜や名産品の販売が厳しい状況にありました。そこで自治体同士を結び、東北の名産品を全国各地で販売する「JAPAN市」を開催することにしました。食を通じて東北の素晴らしさを全国の人達に知ってもらえる機会になればと考えています」



経団連会員企業

●企業 約1,400社 ●団体 約160団体

日商・東商会員企業

●全国 515会議所 ●会員 約125万社

経済同友会会員所属企業

●会員 約1,500人



■体験が将来に繋がる

「ハードレガシーについてお伺いします。どのような活動をされていますか？」

「まずは子ども達に日本のモノづくりに興味を持ってもらうことがスタートになります。興味を持ってもらうには、実際にテクノロジーに触れてもらうことが一番です。3年前から、東京・大手町で協議会参画企業の最新技術や製品を紹介する展示会を開催してき

主な参画企業

IHI	あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP	AsahiKASEI	Asahi アサヒホール	asics	Aj AJINOMOTO
麻生セメント	AEON	ITOCHU	AGC	Canon	近畿日本ツーリスト
SUNTORY	JSR JSR株式会社	ENEOS	JB 運動のそばに、いつも。	松竹	NIPPON STEEL
住友商事	住友電工	住友林業	SECOM 世界を安心させる、世界へ	CENTRAL CENTRAL SPORTS	ANA
ZENRIN	ALSOX	一畑ホールディングス 第一生命 Dai-ichi Life Group	大成建設 For a Lively World	DNP 大日本印刷	TANAKA
中外製薬 ロシュグループ	TEIJIN	DENSO	dentsu	東京海上日動	TOKYO GAS
TORAY	TOPPAN	TOYOTA	transcosmos	NISSAN MOTOR CORPORATION	JAPAN AIRLINES
日本生命	Orchestrating a brighter world NEC	NTT	日本郵政	NOMURA	Panasonic
JR東日本	HITACHI	FORVAL	FUJITSU	BRIDGESTONE	古河電工
FUTURE	HONDA	MIZUHO	MS&AD 三井住友海上	SMBC 三井住友ファイナンシャルグループ	MITSUI & CO.
三井不動産 MITSUI FUDOSAN	三井物産 三井物産ホールディングス	三菱ケミカルホールディングス THE KAITERI COMPANY	三菱地所	MITSUBISHI ELECTRIC Changes for the Better	MUFG 三菱UFJ銀行
meiji	モリタ	ヤマトホールディングス	LIXIL	RECRUIT	

ました。様々な方向から競技を
楽しめるマルチアングルや、VR
(仮想現実)・AR(拡張現実)

を用いた競技観戦など、大会で
導入が見込まれる技術を紹介
しています。空港での出入国審



活動推進体制

オリンピック・パラリンピック等経済界協議会

最高顧問	御手洗 経団連名誉会長 岡村 日商・東商名誉会頭
常任顧問	中西 経団連会長 三村 日商・東商会頭 櫻田 経済同友会代表幹事
会長	豊田 経団連 オリンピック・パラリンピック等推進委員長
委員	経団連副会長 日商・東商副会頭 経済同友会副代表幹事 主要スポンサー企業役員 等

査で使用する顔認証システムなど、実際に技術を体験できるスペースも設けているので、子ども達も夢中になって楽しんでくれました」

「昨年の「東京モーターショー2019」にも子ども達を招待したとお伺いしました

「各社の技術が将来の生活にどう取り入れられるのかを紹介する「フューチャーエキスポ」のコーナーに招待しました。自動運転車や空飛ぶクルマ、月面探査ローバーといった未来の車を展示したのが特徴です。センサー類を使って運動能力を数値化したり、実際に競技会場にいるような臨場感を味わえる映像技術の体験会など、遊び感覚で学べるツールも用意しました。特に地方在住の子ども達はこのような最新技術に触れる機会が多いとは言えないので、興味を持ってくれた子が多かったです。体験した驚きや興奮を家族や友人と共有することで、思い出が経験として蓄積されていくと思います。ここで経験が、彼ら彼女らの将来に

繋がることを願っています」

「5Gが今年からいよいよ日本でも本格化してきます。大会ではどのようなことを期待されていますか

「コネクテッドカーや自動運転車の普及・実現には無くてはならない技術です。消費者の関心を高めるといった面でも、大会の開催とタイミングが合ったのは良かったと思います。5GはBtoBでは根付いてきていますが、BtoCではまだ認知は万全とは言えませんが、興味を持ってもらえるようアピールをしていきたいと思っています」

■今後の継続が重要になる

「五輪開催まで5カ月を切りました。意気込みをお願いします

「約4年間の活動で、汗をかいて日本のエンジンを温めることができました。残りの4

カ月で経済界が更に団結し、「ONE TEAM」として未来にレガシーを残していければと思います。これまで大事に育ててきたレガシーの灯火を絶やすことなく、次の世代にバトンを渡していきます」

東京モーターショー2019に被災地の小学生約50人を招待した際、橋本東京オリパラ担当大臣にも小学生と交流いただきました。



TOKYO MOTOR SHOW 2019

COUNTDOWN SHOWCASE

FUTURE EXPO

「第46回東京モーターショー2019」での連携 「FUTURE EXPO」に参加

COUNTDOWN SHOWCASE×東京モーターショーのコラボレーションによって実現したビッグイベント「FUTURE EXPO」。オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の参画企業をはじめ、規模の大小や業種の垣根を越えた62の企業・団体が参加。10月24日～11月4日の12日間に約50万人もの来場者で賑わいました。

FUTURE EXPO ROUTE▶

1

入国

2

移動体験

3

都市

4

スポーツ

5

地方観光

6

未来のエネルギー

1

入国／近未来の日本に入国体験！最新技術と楽しいパフォーマンスで、来場者をスマートにお迎えします。●顔認証を利用した出入国管理の体験。東京2020大会の会場でも観客やスタッフの入退場に活用を予定

2

移動体験／自動運転やEV、AIはもちろん、夢の技術を満載した未来のクルマが勢揃い。モーターショーとのコラボならではの最新モビリティが目白押し！
●東京2020大会に投入予定の専用モビリティ。高齢者や障がい者、妊婦の方などを会場までサポート

4

スポーツ／東京2020オリンピック・パラリンピックも、いよいよ間近。より一層の盛り上げを促すための体験型スポーツコンテンツエリア。●臨場感溢れるスポーツ観戦が楽しめる最新映像加工・伝送技術。もちろん東京2020でも活用予定

5

地方観光／地方の魅力を国内外に発信し、観光客の誘致や被災地の復興に繋げる。経済界協議会の発足当時から続く、大きな目的の一つです。●自律走行型警備ロボットは多言語対応ナビゲータも兼任。タッチパネルと音声で、目的地までご案内

6

未来のエネルギー／NEDO*との協力により、水素エネルギーの可能性と有効利用に関する展示を実施。さらに、日本の宇宙開発に対する取り組みについてもご紹介。●月面探査ローバーの模型と、実寸タイヤ。自分の背丈ほどもあるタイヤを前に、少し驚く子どもたち

3

都市／完全自動運転車の普及が想定される2030年、移動時間・移動空間の過ごし方も大きく変わります。●「Living Room」「Business」「Relax」「Entertainment」、シーンに応じて姿を変える未来の快適な車室内空間のコンセプトを提案します。

出展者のコメント

今までの COUNTDOWN SHOWCASE と比べ、規模の大きさはもちろん、家族連れ・お子さま連れの多さにびっくり。次の世代へレガシーを伝えるという狙いに、ぴったりハマった気がしています。

場所柄もあってか、外国人のお客様も多数来場していただきました。東京 2020 は日本の技術を世界中にアピールする機会になるはずなので、その前哨戦として大きな手応えを感じています。

モーターショーとのコラボレーションということで、自動車系・非自動車系の最新技術がクロスオーバーしていて、来場者の方だけでなく出展者側から見ても大変興味深い展示会になったと思います。

初めての参加でしたが、協議会からの熱心なお誘いと明確な企画意図に魅力を感じ、すぐに協力を決めました。当社の事業は BtoB 中心なのですが、一般の方と直接接する機会が得られ、有意義なイベントになりました。



*国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

自工会 ソフトレガシー活動



白熱した「2017ジャパンパラポッチャ競技大会」を観戦



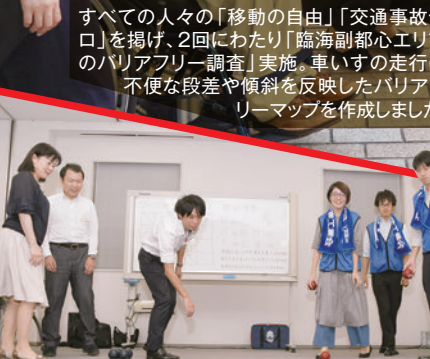
すべての人々の「移動の自由」「交通事故ゼロ」を掲げ、2回にわたり「臨海副都心エリアのバリアフリー調査」実施。車いすの走行に不便な段差や傾斜を反映したバリアフリーマップを作成しました



自工会・企画WGメンバーがブラインドサッカーを体験



ソフトレガシー活動第1弾「ブラインドサッカー」を観戦、迫力ある競技に全員が感動



障がい者スポーツ普及の一環で、自動車関連団体が「ポッチャ」を体験する大会を日本自動車会館「くるまプラザ」で開催



東京オリンピック・パラリンピック大会の成功と、その後のレガシー形成に向け、自工会は支援活動を実施しています。オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携し、特に障がい者スポーツであるパラリンピック競技の普及に向けた応援や、「心のバリアフリー」促進のために「バリアフリーマップ」を作成するなど、ソフトレガシー活動に力を入れています。



東京大学大学院教育学研究科の星加良司准教授に「心のバリアフリー」についてお話を伺い本誌に掲載



「2018ジャパンパラ陸上競技大会」を観戦、力強い走りに感動



飲酒運転の実態と防止について



第一回

飲酒運転問題の実態と国内・各国の防止の取り組み

岩片孝司 [一般社団法人 日本自動車工業会 飲酒運転防止技術分科会]

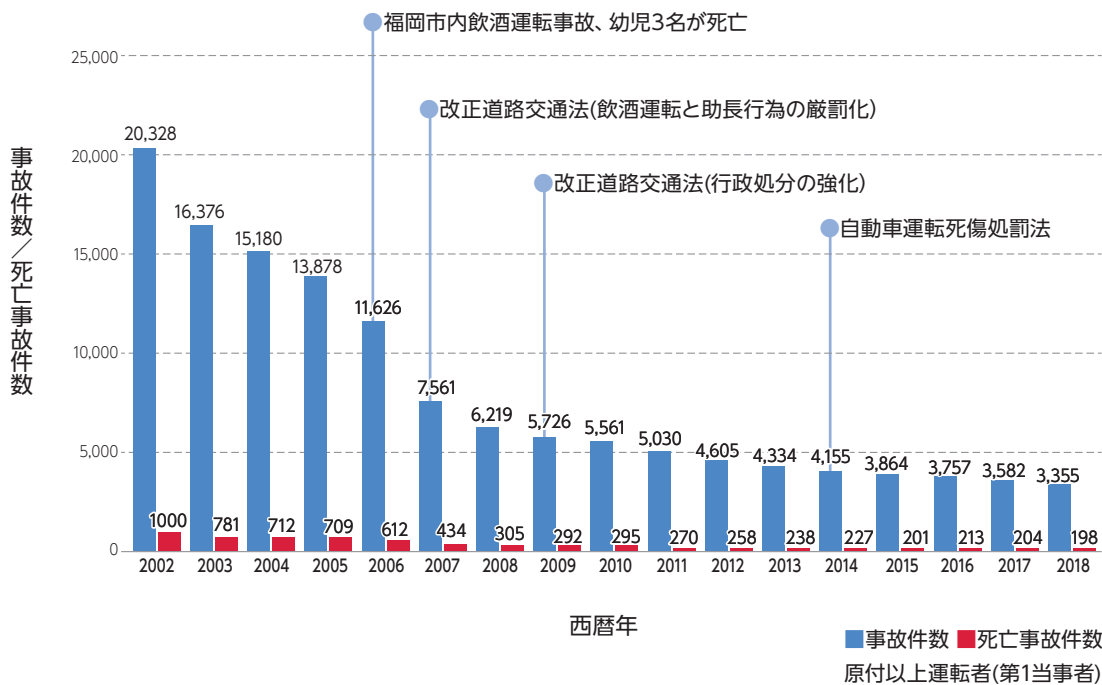
1. はじめに
飲酒運転問題の実態

日本自動車工業会の飲酒運転防止技術分科会では、2013年に実施した飲酒運転に関する意識調査と、関係省庁や有識者を交えたパネルディスカッションを通じて、それまでの対策と今後の方向性を議論した。本稿では、それから7年弱を経た現在の国内の状況をはじめ、諸外国の問題と対策の実態、また、飲酒運転とその事故の特徴や飲酒運転に至るプロセスなどを紹介しながら、読者の皆様と飲酒運転防止を考える機会とさせていただきます。

まず、国内の飲酒運転に関わる事故件数と死亡事故件数は、2003年の16,376件と781件から、15年後の2018年には3,355件と198件に減少している*1。その間には、悲惨な飲酒運転事故に対する世論の高まりや厳罰化がある(図1)。

飲酒事故当事者について詳しく見ていくと、まず、事故件数/死亡事故件数とも圧倒的に男性が多い(事故件数:女性...2,386件、男性21,292件/男性が9倍、死亡事故件数:女性...106件、男性1,175件/男性が11倍)。年齢別では、事故件数/死亡事故件数とも20~59歳ま

図1. 国内の飲酒運転問題をめぐる経緯*1



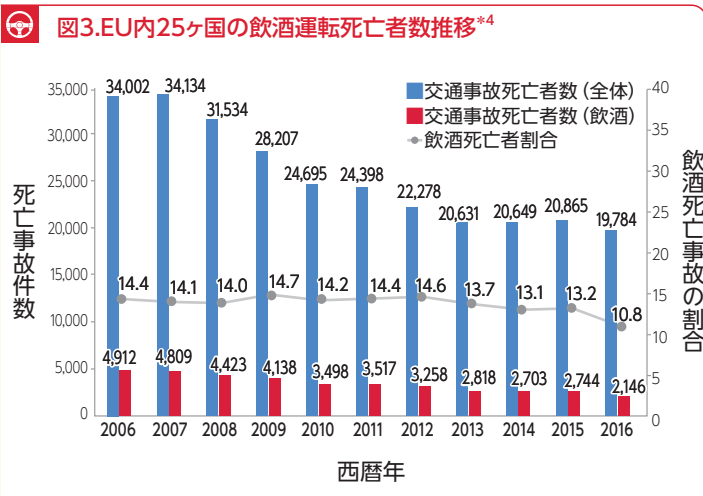
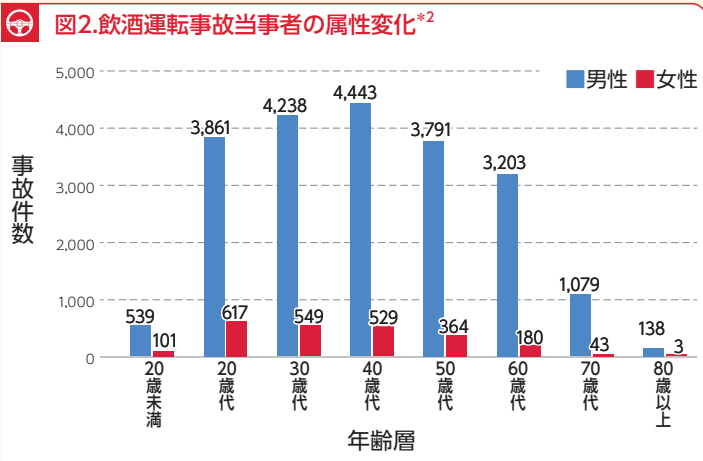


表1.アジア諸国の飲酒運転事故(2015年発行)*5

国	登録車両台数*	交通事故死亡者数			法規飲酒基準 (g/Dl)****
		全体**	飲酒***	飲酒の割合 (%)	
中国	250,138,212	58,539	2,224	3.8	0.02
インド	159,490,578	137,572	6,466	4.7	0.03
ベトナム	40,790,841	9,156	3,113	34.0	0.05
タイ	32,476,977	14,059	3,627	25.8	0.05
マレーシア	23,819,256	6,915	1,611	23.3	0.08
韓国	23,150,619	5,092	728	14.3	0.05
日本	91,377,312	5,679	271	4.8	0.03

*4輪車(トラックとバスは除く) **各国定義に基づく各国発表値 ***WHO推定値 ****一般運転者向けBAC(血中アルコール濃度)に換算

での年齢層が圧倒的に多く、全体の70%以上を占める(いずれも2010年~2014年の累計)*2。いわゆる成人の現役世代で、飲酒の機会が多いことと、自動車を使う活動(仕事やレジャー、買い物など)の機会が多いことが影響しているものと思われる。また、16~19歳の未成年者は、事故件数で3%、死亡事故件数で7%を占めている*2。同じ年齢層の免許保有者数は、全体の1:1%(2018年)であり*3、特に死亡事故件数でこの割合

を大きく超えている。欧米でも、飲酒運転は深刻な社会問題である。米国では、全交通死亡者数の約30%に飲酒運転が関与していると言われている。1980年代から半減はしたが、ここ10年はほぼ年間1万人の高止まりの実態がある。欧米では、昼食時にワインを嗜むなど、活動時間帯のアルコール摂取の習慣が飲酒運転撲滅の障害の一つとも考えられる。モータリゼーションが進展しつつあ

る新興諸国でも、飲酒運転問題が顕在化している。アジア地域を例にとると、ベトナム、タイ、マレーシアでは飲酒運転関連事故の死亡者数の割合が多い(表1)。タイでは、旧正月のソンクラーンの時期は交通事故死亡者数が最も多く、期間中の6日間だけで約3500人が死亡、飲酒が一番の原因である。当局は、毎年飲酒運転防止の策を講じるが、十分な効果を上げているとは言い難い。また、飲酒運転は再犯率が高いこと

が特徴である。警察庁が2009年に行った調査では、再犯率は約8.5%であり*6、アルコール依存症的なドライバーの存在も注目されている。欧米でも、再犯率の高さはかねてより注目されおり、再犯防止は国や地域に依らない課題である。このように、飲酒運転問題は、長年の、あるいは新たに顕在化してきた、国民性や生活習慣にも関わる根深く、深刻な社会問題である。

2. 飲酒運転防止の取り組み

国内では、悲惨な飲酒運転事故が世論の高まりを呼び、危険運転致傷罪や、重い禁固刑や罰金刑を含む厳罰化につながった。その施行前後から事故件数、死亡事故件数とも大幅な減少を見たが、ここ数年はそれぞれ約3,500件、200件前後の状況が続いている。これには、飲酒運転を常習的に繰り返すドライバーが関わっていると見られている。アルコール依存に陥り自己コントロールできないかつたり、飲酒の影響に無知なまま無謀な運転を繰り返すドライバーには、必ずしも厳罰化が有効な防止策とは言えない。それに対して、より多面的な防止活動の動きがある。

運転免許の取消しを受けた人に対して都道府県公安委員会が行う取消処分者講習では、受講者の運転免許の取消事由に係る累積点数の中に飲酒運転の法令違反が含まれている場合、飲酒運転を繰り返さないよう、その立ち直りと再犯防止を支援するため、AUDIT(オーディット)とブリーフインターベンションを取り入れている。AUDITは、アルコール使用障害に関するスクリーニングテストで、本人にアルコール依存の程度を自覚させるもの、ブリーフインターベンションは、普段

の飲酒行動を振り返って、飲酒運転に陥りやすい状況やその対処法を自身に考えさせるとともに、飲酒行動改善のための助言を行うものである。AUDITについては、運転免許の効力の

停止を受けた人等に対する停止処分者講習の飲酒学級(運転免許の効力の停止を受けた事由に照らして飲酒運転の危険性について指導する必要があると認められる受講者を対象とした学級)にも取り入れられている*7。

また、2013年にアルコール健康障害対策基本法が制定された。アルコール健康障害の予防と発生進行の防止を、総合的かつ計画的に推進すること、不適切な飲酒が原因となる飲酒運転・自殺虐待・暴力を防ぎ、本人のみならず家族が日常生活と社会生活を円滑に営むために国が推進する基本施策が示された*8。地方自治体には、アルコール健康障害対策推進計画として、国との連携や地域の状況に応じた施策を策定することが努力義務とされた。不適切な飲酒による

問題の発生予防、進行予防や再発予防のための条例などによる制度化と、その運用に関わる役所・施設・団体などによる切れ目ない連携が求められる。2018年度までに、42の自治体の取り組み内容が明らかになった。活動が先行し、その結果を踏まえながら

施策策定を進めるいくつかの自治体では、既に大きな効果を上げている。

アスク(アルコール薬物問題全国市民協会)でも、アルコール関連問題の予防のため、飲酒運転防止インストラクターと呼ばれる指導者を育成し、飲酒問題の基礎知識の啓発や問題を抱える企業や団体や個人の実情に即した節酒の支援を行っている。アスクではまた、飲酒の身体と運転行動への影響の理解促進として、500ml缶ビールに含まれるアルコール量約20gを1単位としてその分解にかかる時間(男性約4時間、女性約5時間が参考値)から、運転開始時間から遡って、飲酒運転にならない飲酒量と終了時間の目安を計算する手法を提唱している*9。

欧米ではアルコールインターロック(図4)という機器による再犯防止が行われている。飲酒運転で有罪となったドライバーの一部には、呼気から飲酒有無を判定して自動車の始動を制御する機器の装着を条件に、運転する許可を与えている。機器を装着したマイカーしか運転できず、始動前には必ず呼気検査が必要で、検査結果は機器に記録として残り、装着を命じた当局への定期的な記録の提出が求められる。機器の装着脱着や記録提出のための1,000ドル程度の費用は自己負担である。米国では、アルコー

④ 図4.アルコールインターロックの例(一般財団法人 日本自動車研究所 提供)



ルインターロックによって15〜69%の飲酒運転を抑止できるとする報告がある*10*11。

しかし、この手法は、飲酒運転をさせない監視をすることが主眼で、必ずしも違反者の更生につながるとは限らないとも言われている。そういった課題に対して米国カリフォルニア州では、DUI(Driving Under Influence)コートという、飲酒に関係する事案を扱う簡易裁判所の取り組みがある。DUIコートには、飲酒



図5.DADSS*13



● 呼気式

● 接触式

●呼気式：吹きかけ不要
自然な呼吸で検知

●接触式：触れば検知
スタートSWへの組み込みを想定

親が子供に車を与える時に飲酒運転できないようにしておくなどの使い方が考えられる。

また米国では、自然な運転行動で飲酒を検知し判別する装置の開発に取り組んでいる。DADSS(Driver Alcohol Detection System for Safety)と呼ばれる活動で、NHTSA(National Highway Traffic Safety Administration、道路交通安全局)が主導で進めるプロジェクトである*13。呼気から検知するもの(呼気式)と、機器に触れた指などから検出するもの(接触式)の2種の技術開発を進めているが、いずれも特別な操作を必要とせず、乗車してエンジン始動する自然な動作で検知判定できることを目指している(図5)。飲酒運転違反者の再犯防止の監視と言つ、対象者を限定する用途に留まらず、総てのドライバーに対する予防的な検知技術としての活用が期待される。米国で問題になっているティーンエイジャーの飲酒運転に対して、

や薬物の問題に詳しい裁判官や検事が所属しており、処罰と教育/治療を組み合わせた更生を指示する。違反者は、飲酒の作用や依存症の知識を得た上で、同様の問題を抱える人々との討議や専門家による講義やアドバイスを経て、自身の生活を振り返つて生活習慣を変革するなど、生活や内面の実態に治療を組み合わせてることで、再犯を抑える効果を上げて

いる*12。
また米国では、自然な運転行動で飲酒を検知し判別する装置の開発に取り組んでいる。DADSS(Driver Alcohol Detection System for Safety)と呼ばれる活動で、NHTSA(National Highway Traffic Safety Administration、道路交通安全局)が主導で進めるプロジェクトである*13。呼気から検知するもの(呼気式)と、機器に触れた指などから検出するもの(接触式)の2種の技術開発を進めているが、いずれも特別な操作を必要とせず、乗車してエンジン始動する自然な動作で検知判定できることを目指している(図5)。飲酒運転違反者の再犯防止の監視と言つ、対象者を限定する用途に留まらず、総てのドライバーに対する予防的な検知技術としての活用が期待される。米国で問題になっているティーンエイジャーの飲酒運転に対して、

日本を含む各国の現在の取り組みは、従来の違反者に対する厳罰や監視など、起こしてしまった問題に、ペナルティを与えて再発防止を促す対策が主だったのに対して、起こしてしまう前の未然防止的な対応や、ドライバーに内在する根源的原因に踏み込むなど、撲滅に向けたより効果的な活動運用と技術開発へのチャレンジと言える。

3. おわりに

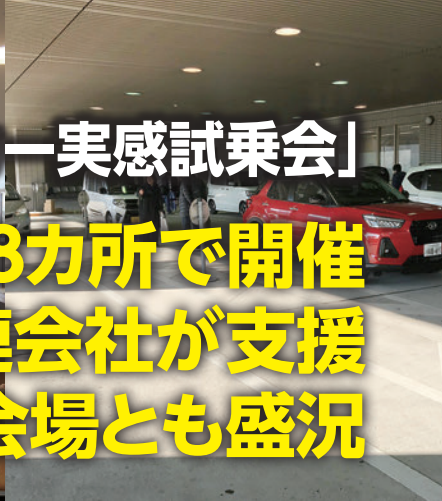
飲酒運転は日本国内のみならず、世界各地域各国共通の社会問題である。それぞれの地域・国の事情に関わる特徴を持ち、独自の防止の取り組みがなされているが、いずれも根絶には至っていない。根絶を難しくしている理由の一つが、アルコール依存症的なドライバーを含む常習者や再犯が多いことで、厳罰化だけでは十分な効果が期待できない実態がある。こういった特徴を踏まえ、違反当事者の意識や生活習慣にまで踏み込んだ更生の活動(ソフト)や、運転前に簡便・確実に飲酒状態を見極める技術開発(ハード)も進行中である。
今回は、飲酒の人体と運転行動への影響を解説しながら、飲酒運転事故の実態分析に基づくドライバーへの防止の提言を行いたい。

【参考文献】

- *1 警察庁HP (<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/insyu/info.html>)、2019年10月28日アクセス
- *2 飲酒運転事故関連統計資料(H22年~H26年の累計)、警察庁交通局配布資料
- *3 運転免許統計(平成30年版)、警察庁HP (<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/menkyo.html>)、2019年10月30日アクセス
- *4 Progress in reducing drink driving in Europe, European transport safety council(2018)
- *5 Global status report on road safety 2015, World Health Organization(2015)
- *6 常習飲酒運転者に講ずべき安全対策に関する調査研究 平成20年度警察庁委託調査研究報告書 (<https://www.npa.go.jp/koutsuu/menkyo1/h20houkoku.pdf>)、2019年10月28日アクセス
- *7 常習飲酒運転者に講ずべき安全対策に関する調査研究(II) 平成21年度警察庁委託調査研究報告書 (<https://www.npa.go.jp/koutsuu/menkyo1/h21houkoku.pdf>)、2019年10月28日アクセス
- *8 厚生労働省HP (<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000176279.html>)、2019年10月28日アクセス
- *9 アスクHP (<https://www.ask.or.jp/>)、2019年10月28日アクセス
- *10 J. H. Coben, et al, Effectiveness of Ignition Interlock Devices in Reducing Drunk Driving Recidivism, American Journal of Preventive Medicine, Vol.16, No.1S(1998)
- *11 K.H Beck, et al, Effect of Ignition interlock License Restrictions on Drivers With Multiple Alcohol Offenses: A Randomized Trial in Maryland, American Journal of Public Health, Vol.89, No.11, p. 1696-1700(1999)
- *12 2008 Annual report of the California DUI management information system, p. 40-42(2008)
- *13 DADSS HP (<https://www.dadss.org/>)、2019年10月30日アクセス

経済産業省主催「サポカー実感試乗会」

全国8カ所で開催 自動車関連会社が支援 各会場とも盛況



「サポカー実感試乗会」について

日程・会場

日程	地域	会場	体験者(人)	参加企業
1月19日(日)	大阪	門真運転免許試験場	38	ダイハツ、ホンダなど
1月26日(日)	札幌	札幌運転免許試験場	45	SUBARUなど
1月26日(日)	名古屋	愛知県運転免許試験場	49	トヨタ、三菱自動車など
2月1日(土)	埼玉	アリオ上尾東平面駐車場	144	日産、スズキなど
2月9日(日)	高松	香川県運転免許センター	101	SUBARU、マツダなど
2月9日(日)	仙台	宮城県運転免許センター	62	スズキなど
2月9日(日)	福岡	筑豊自動車運転免許試験場	66	トヨタ、ダイハツなど
2月16日(日)	広島	広島県運転免許センター	120	マツダ、ホンダなど

対象車両

- 新車:①対歩行者衝突被害軽減ブレーキ、②ペダル踏み間違い急発進等抑制装置を搭載した車で、右の要件のいずれかを満たすもの[イ①及び②を搭載する車、ロ①を搭載する車]
- 後付け装置搭載車両

サポカー実感試乗会 THE MOVIE



動画はコチラから!

経済産業省は、北海道や愛知県、大阪府など全国8カ所で、安全運転サポート車(サポカー)を使った試乗会を開催しました。これまでサポカーの試乗会は自動車販売店や関連団体などが実施してきましたが、政府主催で全国的に開くのは今回が初めてです。1月19日の大阪府門真市からスタートし、全国各地の運転免許センターなどで行われました。高齢者を中心に、安全装置の機能に対する理解を深めていただきました。

あっ!

まさか!

とっさに!

つい!

うっかり!

気をつけて! ブレーキと アクセルの踏み間違い

急ぐときほど落ち着いて。余裕をもった運転を心がけましょう

詳しくはWebで



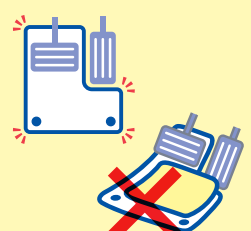
エンジンを掛ける前に、
落ち着いて、ペダルの位
置を確認しましょう。



バック時、料金所での支
払時、体をひねると足が
ズレやすいので要注意。



厚底・サンダル・ヒール
など、運転に適さない
靴・履物は避けましょう。



フロアマットはクルマに
合ったものを使い、重ね
敷きはやめましょう。



あなたの安全運転を支援する「安全運転サポート車(サポカー)」。
その機能を正しく理解し、過信せず、安全運転を心がけましょう。

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館
[安全運転講座ページ] <http://www.anzen-unten.com>

令和2年度

道路ふれあい月間

推進標語を募集します!!

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等各種活動を特に推進していますが、この一環として、令和2年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過ごされがちです。

そこで、この推進標語の募集を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識していただくことを目的としています。

多くの方々からのたくさんのご応募をお待ちしております。

募集要領

募集テーマ	道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない国民共有の、つまりあなたの財産です。みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く、美しく、安全に、共に楽しく利用し、次世代に受け継いでいきましょう。
応募資格	小学生以上の方から応募できます。
応募期間	令和2年3月27日(金)まで(当日必着)
応募部門・賞	【小学生の部】最優秀賞1作品、優秀賞2作品 【中学生の部】最優秀賞1作品、優秀賞2作品 【一般の部(高校生以上)】最優秀賞1作品、優秀賞2作品
応募方法	はがきによる応募の場合
	はがきに、標語と必要事項〔氏名(本名)とフリガナ、住所、電話番号、性別、年齢、学校名(学生の場合)、応募部門の別〕及びアンケート〔何を見て応募したのか(回答は任意です)〕を記載のうえ、郵送してください。 郵送先：〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3 国土交通省道路局道路交通管理課 標語担当あて
	電子メールによる応募の場合
	1.メール本文に、標語と必要事項〔氏名(本名)とフリガナ、住所、電話番号、性別、年齢、学校名(学生の場合)、応募部門の別〕及びアンケート〔何を見て応募したのか(回答は任意です)〕を記載のうえ、 hqt-dourofureaigekkan@gxb.mlit.go.jp に送信してください。 2.国土交通省ホームページの応募様式に記入のうえ、電子メールに添付して応募することもできます。
1人2作品まで応募できます。	小学校・中学校単位での応募の場合(学年・クラス単位含む)
	1.作品をとりまとめのうえ、封書にて郵送してください。学校名及び学校所在地での応募が可能です〔但し、応募作品ごとに、氏名(本名・フリガナ)、性別、年齢を明示してください〕。 2.国土交通省ホームページの応募様式に記入のうえ、電子メールに添付して応募することもできます。
入賞作品の発表・使用	入賞作品は決定次第、ご本人に直接通知するとともに、国土交通省ホームページ等で発表し、「道路ふれあい月間」の推進に幅広く活用させていただきます。
表彰	「道路ふれあい月間」期間中に国土交通省から賞状及び楯を贈呈いたします。
その他	●応募作品の返却は致しません。 ●入賞作品の著作権は主催者に帰属します。 ●本募集で取得した個人情報は、入賞の作品の連絡・発表、表彰式のご案内にのみ使用し、それ以外の目的に使用することはありません。
主催	国土交通省
お問い合わせ先	国土交通省道路局道路交通管理課 総務係 五十嵐・大山 (代表) 03-5253-8111 (内線) 37423・37424 (mail) hqt-dourofureaigekkan@gxb.mlit.go.jp



QRコードよりウェブサイトをご覧になれます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001285.html



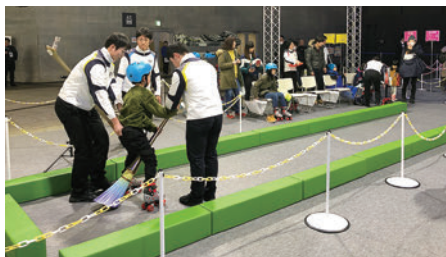
札幌モーターショー2020 (1月17~19日開催)

**34ブランド 165台展示
9万599人が来場**

東京モーターショーに続く、地方モーターショーの第4弾である「札幌モーターショー2020」が1月17~19日の3日間、札幌ドーム(札幌市豊平区)で開かれました。国内外4輪・2輪24社34ブランドのコンセプトカーやニューモデルなど165台を展示。また、トヨタ自動車北海道をはじめとする企業や大学が道内自動車関連産業をPRする北海道自動車産業ゾーンなども企画されました。期間中の来場者数は9万5999人でした。

同ショーは今回が5回目。トヨタ「eRACER」、日産「Mk」、ホンダ「Honda e」などクルマの未来を予感させるコンセプトカーに加え、近く発売予定の「ヤリス」「フィット」が来場者の視線を集めていました。2輪車コーナーには海外ブランドのスクーターやオフロードバイクが並び、北海道ならではの展示となっていました。

今回のキャッチフレーズは「未来は、想像より体験だ」で、体験型の催しに力点が置かれていました。タイヤ交換やクルマの組み立てに挑戦する「トヨタキッズメカニック体験」や、エンジン分解や金属加工を行う「北海道科学大学まちかどキャンパス」などが人気でした。屋外ではSUVなどの雪上体験試乗会も実施されました。



第24回 大阪オートメッセ2020 (2月14~16日開催)

**新型車やカスタマイズカーが500台以上
来場者数は20万人超え**

カスタマイズカーの祭典「大阪オートメッセ2020」が2月14~16日、インテックス大阪(大阪市住之江区)で開催されました。今回のテーマは「ひろげる・つながる・クルマのワクワク」で、自動車メーカーの新型車やカスタマイズカー500台以上が会場を埋め尽くしました。また、日産京都自動車大学校など関西の企業や専門学校もブースを設け、クルマ好きだけでなく、家族連れも来場していました。

会場内はクルマの祭典ムードで、カスタマイズカーを主体に、スパーパーツやGT参戦車輜や、特別仕様車、ドレスアップ、チューニングパーツなど、カスタマイズの様々な角度からクルマの魅力を引き出していました。3日間の来場者数は20万7426人でした。



JAMA 電子情報 フォーラム 2020

(2月13日開催)



資料ダウンロードは
こちら



「MaaSへの取り組み」基調講演風景

CASEやMaaS対応など メーカー系列や業種の枠越え

日本自動車工業会(JAMA)の電子情報委員会は2月13日、「JAMA電子情報フォーラム2020」を東京都内で開催しました。一昨年度に策定した中長期モビリティビジョン実現に向け、CASEやMaaS対応など、従来以上にITの果たす役割が大きくなります。自工会電子情報委員会は2019年度、「サイバーセキュリティ部会」「クルマと社会をつなぐITシステム部会」の2部会を新たに立ち上げ、メーカー系列や業種の枠を越えた協調活動を加速させる方針です。



増田課長補佐
(経済産業省)



堀委員長
(電子情報委員会)

■先進ITの活用

フォーラムの冒頭、自工会電子情報委員会の堀祐輔委員長は「CASEやMaaSがもたらす将来のモビリティ社会の実現には、先進ITの活用が不可欠で、これを支える社会基盤の整備には、競争を越えた協調が重要です。これに向け、従来以上に果たすべき役割が大きくなる電子情報委員会は、常に先進的な活動にまい進します」と強調しました。

■新しい モビリティサービスに向け

基調講演では、経済産業省製造産業局自動車課の増田陽洋課長補佐が、CASEの潮流、MaaSのグローバル動向と日本の課題、新しいモビリティサービス活性化に向けた今後の取り組みの方向性、「走る情報端末」としてのクルマの役割について概要を説明しました。新たなモビリティサービスの実現に向けて、経済産業省は2020年度に、異業種との連携による収益活用・付加価値創出、モビリティのマルチタスク化、サービス

のモビリティ化、移動需要の喚起、交通都市政策と連携したモビリティ関連データの取得の5項目にチャレンジするとしました。増田氏は「新たなモビリティサービスについて支援を拡大しているが、モビリティの移動データを蓄積し、これを交通都市政策へフィードバックすべき」と課題を挙げました。

■サイバーセキュリティ部会

新設された「サイバーセキュリティ部会」は20年度からの3カ年計画で、サプライチェーンにおける業界標準ガイドラインの策定を目指します。20年度に脆弱性脅威情報の共有、21年度に共通認証と侵入検知の仕組みづくりを予定します。

■クルマと社会をつなぐ ITシステム部会

同じく新設された「クルマと社会をつなぐITシステム部会」は、中期方針で、社会システムとの共創を前提に、車両データの取り扱いや業界内外との連携方法をグローバルな視野で検討します。

令和元年度 安全優良職長厚生労働大臣顕彰

厚生労働省では、全国の建設業・製造業に従事する職長*の中から、優れた技能と経験を持ち、担当する現場の安全確保に優良な成績を挙げた者を、「安全優良職長」として顕彰しています。

この制度は、職長の安全管理に対する意識を高めるとともに、顕彰受賞者を核とした労働者全体の安全意識の高揚を図る事を目的として、平成10年度より実施されているものです。

令和元年度は、自工会より以下の2名の方を推薦し受賞が決定しました。

西山 卓二氏

【ダイハツ工業(株) 九州開発センター 安全管理グループリーダー兼職長】

前田 光春氏

【トヨタ自動車(株) 堤工場 チーフエキスパート・工長級】



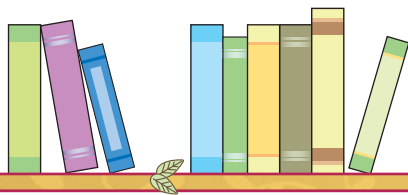
顕彰式典は、1月10日に厚生労働省講堂にて執り行われました。

(出典:厚生労働省)

*職長とは、事業場で部下の作業員を直接指揮監督し、作業の安全確保・遂行に責任を持ち、第一線において「安全」を実現する監督者のことで、班長、作業長などとも呼ばれ、「安全のキーパーソン」と言われています。

●顕彰基準

- (1) 職長等としての実務経験が10年以上であり、現在も当該職務に就いていること。
- (2) 職長等として担当した現場又は部署において、遡って過去5年以上、休業4日以上災害が発生していないこと。
- (3) 職務に必要な資格を有するとともに、能力向上教育等の各種安全衛生教育を十分に受講し、安全管理、作業指揮等の能力が優秀であると認められていること。
- (4) 安全管理に関する部下の指導教育又は安全管理に関する知識・技能の普及や継承について積極的に活動していること。



CAR Manufacturer 自動車博物館 関連施設 紹介シリーズ

三菱自動車工業／三菱オートギャラリー

大正6年の「三菱A型」にはじまり、現在に至るまでの三菱車たちの歩み、発展を知っていただこうと、平成元年に三菱自動車工業・岡崎製作所の技術センター内に開設。ギャラリーは①「三菱の自動車のはじまり」、②「時代を駆け抜けてきた車たち」、③「極限に挑戦した車たち」の3部構成。分野別に展示しながら、三菱のクルマづくりの歴史や現代に受け継がれている伝統、コンセプトを紹介しています。



※展示車両は毎年春と秋に入替を予定

三菱の自動車のはじまり



三菱車のルーツから、2輪、3輪、軽、4輪と三菱ならではの多種多様な車両(三菱A型、PX33、みずしまTM-3C、三菱500、コルト1000、デポネア、シルバービジョン)

時代を駆け抜けた車たち



コンセプトカーから量産車に、日本車の歴史に名車として名を残した「ギャランGTO」、「パジェロ」初期モデル、コンセプトカー「H SR」、4WSの「ギャランVR4」を展示

極限に挑戦した車たち



三菱のモータースポーツの歴史は、第9回マカオグランプリで初参戦・クラス優勝した「三菱500」から始まりました。その後、数々の戦績を残しています

MAG Café (マグカフェ)



ギャラリー見学を終えたその先にあるカフェ。歴代三菱車のカタログや資料、ミニカーなども揃えています。(お客様・社員共用スペースとなっております)

PHEV World



PHEVの魅力を発信するお客様用施設として平成27年12月に三菱自動車岡崎製作所正門横にオープン。情報発信モニターのほか、小型プラネタリウムやVRヘッドマウントディスプレイの体験、無料のカフェスペースも併設。また、駐車場には24時間利用可能な充電器77台(内、3台は急速充電器)を設置。普通充電器については無料でご利用いただけます。三菱自動車工業(株)岡崎製作所/技術センター内 生産本館1F



QRコードより三菱オートギャラリーのウェブサイトをご覧いただけます。
<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/company/facilities/autogallery/>



ご予約・お問い合わせ先



0564-32-5203

予約制、入場料:無料

●月～金 9:00～17:00 (12:30～13:30を除く)

定休日 土日及び三菱自動車工業(株)の休業日(ゴールデンウィーク、夏季連休、冬季連休)

※営業時間に変更となる場合がございます。予めご確認の上、ご来場くださいませ。

インフォメーション

所在地 三菱オートギャラリー

三菱自動車工業(株)岡崎製作所/技術センター内 技術本館1F
(住所 〒444-8501 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地)

電車でお越しの場合

- JR東海道新幹線/東海道線
「三河安城駅」よりタクシーで約25分
- 名古屋鉄道本線
「新安城駅」よりタクシーで約15分
「東岡崎駅」よりタクシーで約20分
又は、名鉄バス「フタバ産業行き」にて「橋目町御小屋」下車
- 愛知環状鉄道
「北野柙塚駅」より徒歩約40分、距離約2.5km。ウェブサイトの案内図を確認し、正門へお越しください。

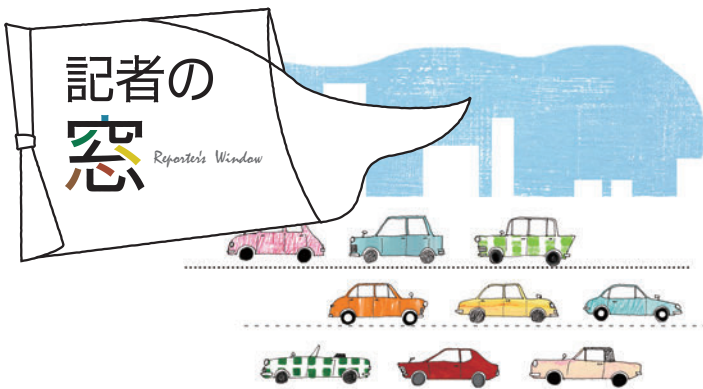
おクルマでお越しの場合

- 伊勢湾岸自動車道「豊田南IC」より約15分
 - 伊勢湾岸自動車道「豊田東IC」より約20分
 - 東名高速道路「岡崎IC」より約20分
- *ナビの設定は、電話番号「0564-31-3100」または住所「愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地」を設定ください。
*来客駐車場は、岡崎製作所 正門前に210台、正門西側に45台ございます。急速充電器(3台)、普通充電器(74台)も利用できます。
*三菱オートギャラリーは弊社岡崎製作所/技術センター内にございます。正門前よりお入り下さい。



詳細な地図をご覧いただけます。
【資料・画像等提供=三菱自動車工業】





産経新聞

いまむら よしたけ
今村 義丈

「陽水」を辿って

◎「そうだ、陽水の故郷に行こう」

2017年6月の金曜。出張先の福岡市でふと、閃いた。仕事が午後早くに終了。週末は休んで帰京の必要もなく、すっぱり日程が空いた。学生時代はバイクでの新聞配達で、社会部が長かった記者人生は何時とも知れぬ事件発生への不安で、私的予定をあまり入れない習性だった自分にとって、珍しい一人旅の始まりだった。

◎井上陽水は敬愛するアーティストだ。初のコンサート体験は陽水のツアー。私用メアドに、御名をお借りしている。その陽水が育ったのが福岡県の元炭鉱町、田川郡糸田町だった。

◎スマホで行き先を検索すると、直筆歌碑を置いた記念公園があり、午後5時の時報で曲のメロディーが流れる、との情報にさらに昂る。東へ約50キロの移動手段を探すと、電車とバスは所要2時間、と出た。時計は3時近く。「カーシェアを使おう」。アプリで予約した軽に飛び乗り、カーナビゲーションを入力。スマホから陽水の曲を流し、出発した。

◎陽水との出合いを振り返ると、昭和53年生まれ割には長い話になる。小学生のころ、父の部屋から漏れるその声を意識しはじめた。繊細な歌詞の意味が当時理解できなかったわけではない。ただ、巷の流行り歌とは明らかに違う迫力に、本能的に打たれた。例えば名曲「紙飛行機」にこんなフレーズがある。

「君は明日まで飛びたいのか」

◎多く聴きこんでいくと、著名な「少年時代」などよりももっと暗く、悲しく、それでいて異様に美しい。脳内にグサグサ刺さる衝撃を「すごい」といった抽象ではなく、言語化したい。それが言葉への興味を生み、記者という職にいざなわれた遠因の1つ、と自己分析している。

◎大げさだが、生と死の境界線すらそれを歩むよつな心もようが立ちのぼってくる。今はそんな風に言語化している。こうした歌に誘われて、ネガティブ思考をしがちなティーンエイジャーのころは哲学者による陽水の歌詞解説書を読み、お気に入り曲は「自己嫌悪」だった。1人カラ

オケ状態の車内で、思い返した。

◎実はこの日は間に合わないと言われて福岡市に引き返し、翌日再びカーシェア。ほかにも巡って夕方、陽水の特徴ある文字を彫った「夏まつり」の歌碑と対面した。そして5時。あちこちのスピーカーから、オルゴール調の「夢の中」が、西日の照り返しで眩しい町内に幻想的に響き渡った。

◎東へ西への無理な思い付き旅に、カーシェアは本当にジャストフィットだった。30度を超す暑さもへっちゃら。九州の名物アイス「ブラッックモンブラン」をほおばるなど、移動個室として満喫した。

◎この原稿依頼を受けた時、後ろめたさがあった。地方勤務時代は中古ミニアル車などを購入していたが拘りは少なく、東京居住の今は所有の動機も薄い。何を書けるだろう、と。だが振り返れば、車は無二の思い出を作ってくれた相棒だった。ありがとう、感謝しよう。

◎さて。陽水の曲名は文中、いくつ隠れているでしょうか(もとはアルファベット綴りの曲もありますが)。



JAMA

一般 日本自動車工業会
社団法人

日本自動車工業会 [JAMAGAZINE3月号] 2020年2月28日発行(毎月1回発行)
発行人：一般社団法人日本自動車工業会 広報室

発行所：一般社団法人日本自動車工業会 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車本部
広報室 kounoz@ma.jama.or.jp 自工業177-6767 | info DRV | URL <http://www.jama.or.jp/>